



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 8 月 7 日 (木)

発行 館長 加 藤 智 一

2025 年夏の全国高校野球選手権大会 (第 107 回大会)



今年の甲子園。従来の運営方式やルールに対して大きな変更が加えられた年となりました。これらの変更は、主に猛暑対策と選手・審判・観客の安全確保を目的としており、時代の変化に対応した新たな高校野球の姿と言えるのではないのでしょうか。

大会運営の主な変更点としては、まず夕方開催の導入です。開会式および開幕戦が初めて「夕方」に開催された他、これまで午前中に行われていた試合が、猛暑対策として「2 部制」に変更され、午前と夕方に分けて実施されるようになりました。具体的なスケジュールとしては、午前の部 第 1 試合 8:00 から第 2 試合 10:30 から。夕方の部 第 3 試合 16:15 から第 4 試合 18:45 からとなりました。また、継続試合制度が導入され、午前の部は 13:30 以降に新しいイニングに入らず、13:45 で打ち切りとなります。また、夕方の部は 22:00 以降に新しいイニングに入らず、試合は翌日に「継続試合」として再開されます。

暑さ対策も強化され、クーリングタイムの設定により、5 回終了後に 8 分間の休憩時間を設け、選手が冷房の効いたスペースで水分補給・体温調整を行えるようになりました。また、ノック時間が短縮され、試合前の守備練習（ノック）時間が 7 分から 5 分に短縮。また、希望校はノック自体を省略することも可能になりました。さらに、第 1 試合のチームには、早朝の起床によるエネルギー不足を防ぐため、簡易的な補食が提供されます。審判の服装も、黒色のシューズから白色へ変更されました。これは、白は熱を吸収しにくく、内部温度が約 10 度、表面温度が約 20 度低くなるというデータに基づいた対策です。

全国大会だけでなく、地方大会でも暑さ対策が進められました。例えば山形県では、第 1 試合を午前 9 時開始、第 2 試合は従来より前倒しして、正午開始としました。奈良県では、開会式を夕方に開催、当日は試合なしとしました。群馬県では、アイススラリ

ー（冷却飲料）の配布を行った他、岐阜県では熱中症警戒アラート発令時は試合順延としました。これらの変更は、地域ごとの気候や運営体制に応じて柔軟に対応されています。

このように、2025 年大会では、熱さ対策において、運営面での工夫や配慮が際立ちました。その中で選手たちは猛暑に負けない全力のプレーを見せてくれています。地方大会でも感動的なドラマが数多く生まれました。例えば千葉大会では、延長タイブレークの末に市立船橋がサヨナラ勝ちを収めるなど、魂のぶつかり合いが見られました。

まとめてみますと、2025 年の高校野球全国大会は、猛暑という現代的課題に真正面から向き合い、運営方式やルールに大胆な改革を加えた記念すべき年となったようです。夕方開催や「2 部制」、「クーリングタイム」などの新制度は、選手の健康を守り、試合の質と感動を損なわない工夫が随所に見られます。これらの変化は、今後の高校野球の在り方に大きな影響を与えることになるでしょう。

余談ではありますが、朝日新聞社が 4 から 6 月に全国の高校野球連盟に加入している約 3800 校の監督・部長向けにアンケートを実施したところ、42 都道府県の 138 校で生成 AI を利用していることが分かりました。その内 106 校（76.8%）は公立高校です。生徒の部活離れや先生の働き方改革の表れなのかもしれませんが、具体的な利用例としては、例えばパソコンに「走力重視、小刻みな得点を期待できる打順」をお願いしたところ、見事にこの「AI 打順」で打線がつながり、チームは 6 得点したとか、筋力トレーニングのメニューや方法を生成 AI に相談して成果をあげているとか。もしかしたらこの文章もチャッピー君が作ってくれたのかもよ !!

